

避難所に見えない栄養士の姿 食物アレルギー患児への支援が望まれる

東日本大震災発生後、三浦医師の報告にあったようにさまざまな組織が一斉に食物アレルギー患児への支援に動いた。その1つ、NPO法人アトピッコ地球の子ネットワークの支援活動取材した。

**食べるものがない！
不休で行なった被災者支援**

東京都新宿区西早稲田、早稲田大学の学生が行き交う商店街の一角にあるビルの一室を拠点に、NPO法人「アトピッコ地球の子ネットワーク」は活動をしている。

同ネットワークの設立は1993年。目的はアトピー・アレルギー性疾患をもつ患者とその家族を対象として、生活支援のためのさまざまな活動を展開していくことだ。今回の東日本大震災に際しても、被災地で食物アレルギー患児たちが食べられるものにならなくなってしまふことが予想されたため、発生当日にすぐ政府に物資を運ぶためのトラックを要請し、アレルギー用の物資を2回搬送したと、同ネットワークの事務局長で専務理事の赤城智美さんは言う。

「3月11日からの4日間は、アレルギーを除去した食品を販売しているメーカーやマスクなどを供給している医療機器メーカーなどから提供されたアレルギー除去食品の数々をトラックに積み込む前、必要な物資が必要な人に届くように箱に小分けし、品目を明記しておく

は、やがて、親類縁者を頼り、身を寄せたお宅から救援要請の電話をしてくるようになりまし。また、被災地の商工会議所の青年部の方々から、小規模な避難所のご家族の情報も入るようになりまし。4月になると宅配便が届くようになったこともあり、そうした個々の人々への支援を積極的にこなしていきまし



災害支援の拠点として支援物資を受け入れてくれた福島市の医療生協わたり病院



(株)らでいっしょべーやが支援物資の中継場所として本社エレベーターホールを提供してくれた



メーカーなどから提供されたアレルギー除去食品の数々



トラックに積み込む前、必要な物資が必要な人に届くように箱に小分けし、品目を明記しておく

「被災地の状況は刻一刻と変化していきまし。当初、大規模な避難所で生活していた食物アレルギー患児とその家族

「被災地の状況は刻一刻と変化していきまし。当初、大規模な避難所で生活していた食物アレルギー患児とその家族

まずはご相談ください！
東日本大震災被災者支援
アレルギー用の物資を
無料提供します
アレルギー用の食品、せんそく、アトピー性皮膚炎のケア用品など
必要なものを無料で提供します。
03-5948-7891
Mail: yoshizawa@atopicco.org
NPO法人アトピッコ地球の子ネットワーク
〒169-0051東京都新宿区西早稲田1-9-19-207

NPO法人アトピッコ地球の子ネットワークが作成したポスター

「被災地の状況は刻一刻と変化していきまし。当初、大規模な避難所で生活していた食物アレルギー患児とその家族

「被災地の状況は刻一刻と変化していきまし。当初、大規模な避難所で生活していた食物アレルギー患児とその家族

「被災地の状況は刻一刻と変化していきまし。当初、大規模な避難所で生活していた食物アレルギー患児とその家族

「被災地の状況は刻一刻と変化していきまし。当初、大規模な避難所で生活していた食物アレルギー患児とその家族

NPO法人アトピッコ地球の子ネットワークでは、アトピー・アレルギー性疾患の子どもとその保護者を対象とした夏休み教育キャンプ(8月17～20日・神奈川県立藤野芸術の家)で、調理などを手伝うボランティアスタッフを募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.atopicco.org>